

## [ 認知症対応型共同生活介護用 ]

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0790900013		
法人名	医療法人相双眼科医院		
事業所名	認知症高齢者グループホーム 森の都		
所在地	相馬市柚木字大関64-17 (電話) 0244-35-1114		
評価機関名	社会福祉法人 福島県社会福祉協議会		
所在地	福島市渡利字七社宮 1 1 1		
訪問調査日	平成21年3月23日	評価確定日	平成21年4月28日

## 【情報提供票より】(平成21年2月2日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 20年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算	7.35人

## (2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	平屋	建ての ~ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

## (4) 利用者の概要(2月2日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	2名	要介護2	4名		
要介護3	0名	要介護4	3名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.8歳	最低	80歳	最高	97歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大石医院、医療法人相雲会小野田病院、相良歯科医院
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周りは広々としており日当たりが良く、各居室にはテラスがありホームの中は清潔である。食事に関しても旬の素材を工夫して調理されており、おいしい食事が提供されている。利用者は、居間の掘りごたつに入りくつろいで過ごしており、家庭的な雰囲気が感じられる。同じ法人が運営する老人保健施設が併設され、グループホームとの交流が行われている。事業所は職員教育に力を入れ、介護力の向上に努めている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の評価が初めてとなる。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回初めて自己評価に取り組んだ。全体会議を数回開催し、全職員で自己評価の項目の一つ一つを話し合った。職員は、日々の介護を振り返り、自分たちが何をすべきかの再確認をすることができた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。出席者は、老人会、婦人会、地域ボランティア、利用者家族、市役所職員などの代表で、利用者の活動状況、行事予定、運営状況、広報誌などについて報告をしている。さらに、運営推進会議をクリスマス会の日に開催し、委員も一緒に参加することで、ホームの状況を知ってもらう機会を設けている。また委員を通じて、ホームの行事に地域のボランティアや老人会が参加している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族から意見や苦情が言いやすいように職員は家族の面会時に声をかけることを心がけている。家族より意見があった時は、その都度状況を説明している。今後さらに把握方法を工夫するなどして取り組んでほしい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの立地場所が国道を挟み民家がない場所のため、地域との付き合いが難しいが、利用者の家族にも協力してもらい相馬野馬追いを見に行ったり、地域の公民館の行事に参加したりするなど地域の方との交流が行えるよう努めている。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念として「異體同心（職員は同じ方向で一つになって介護を行う）」、「利用者本意（利用者の立場に立つ）」、「地域密着（住み慣れた相馬市で過ごす）」という内容を職員全員で作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事務所に掲示しており、また毎朝のミーティングの際には、理念をサービス提供場面に結びつけ、職員同士話し合いを行っている。理念の実現に向けて日々の介護の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設の立地場所が国道を挟み民家がない場所のため地域との付き合いが難しいが、利用者の家族にも協力してもらい相馬野馬追いを見に行ったり、地域の公民館の行事に参加したり、地域の方と交流が行えるよう努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回初めて自己評価行なった。全体会議を数回開催し、全職員で自己評価の項目一つ一つを話し合った。職員は、日々の介護を振り返り自分たちが何をすべきかの再確認をすることができた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。出席者は、老人会、婦人会、地域ボランティア、利用者家族、市役所職員などの代表で、利用者の活動状況、行事予定、運営状況、広報誌などについて報告している。さらに、運営推進会議をクリスマス会の日に開催し、ホームの状況を知ってもらう機会を設けている。また委員を通じて、ホームの行事に地域のボランティアや老人会が参加している。</p>		
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>毎月発行している法人の広報誌の裏面に、グループホームの活動内容や写真を載せ、お知らせ欄を作り担当職員が利用者の日頃の様子を記入し、家族へ送付している。細かいお知らせについては管理者が電話や面会時に家族へ報告をしている。その他、日頃の様子を写真に撮り個人用アルバムを作り、家族の面会時に気軽に見れるようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族から意見や苦情が言いやすいように職員は家族の面会時に声をかけることを心がけている。家族から意見があった時は、その都度状況を説明している。特に意見、不満、苦情はないが、把握の方法に工夫の必要がある。</p>	○	<p>家族の意見、不満、苦情が引き出せるよう、把握の方法に工夫するなど、全職員で話し合い検討してほしい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>離職者は、利用者一人ひとりに離職者本人から説明を行なうなど、引継ぎの面で配慮している。利用者一人ひとりに担当職員を決め馴染みの関係が作れるようにしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は、福島県グループホーム連絡協議会などの主催する研修にできるだけ多くの職員が参加できるよう配慮している。研修後は内部研修として報告会を行っている。その他、同法人が経営する老人保健施設での研修に参加をしている。しかし、外部、内部研修問わず年間研修計画はなく、参加した職員の報告書もない。	○	研修の年間や個別計画を立て、職員のレベルに応じた研修の参加を検討してほしい。そして、参加した研修についての報告書をまとめ、日々の介護について振り返り、サービスの質の向上に繋げてほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム連絡協議会に加入し、研修を通じて交流を行っている。その他、同法人が運営する老人保健施設や同法人理事長が運営するグループホームを訪問したり、新人研修を協力して行なうなどの交流を図っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活して気軽に話し合い、共に支えあう関係を目標としている。日常生活を共に過ごすことで料理の方法や雑巾の縫い方、昔の相馬市について教わるなど利用者から学ぶ姿勢を大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや希望の把握に努め、困難な方についてはミーティングで申し送りを行い全職員で考えるよう努めている。また家族からも入居前の暮らし様子を聞いたりするなどして把握をしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者の現在の状況や家族の状況、思い、職員からの気づきなどの情報をふまえ、職員全員で話し合って作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護記録や排泄管理表などの記録を基に常にミーティングで話し合い、3ヶ月に1回介護計画検討のための会議を行い、定期的及び変更が必要かどうかを職員全員で話し合っている。日常生活における状況把握は行われているが、介護計画に沿った記録が行われていない。	○	介護の質の向上につなげられるよう、介護計画に沿った記録を検討してほしい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医や救急の場合の医療機関の受診体制を整備しているが、基本的には利用者の希望するかかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医の受診は、家族に協力してもらっているが、難しい場合は職員が付き添っている。家族も職員も互いに受診の結果を連絡し合っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の場合でも事業所で対応していくという方針が書面で作られており、入所時に家族へ説明し同意書もある。緊急事態のときは、看護師である管理者が対応、老人保健施設の協力が得られるという体制になっており、職員も理解している。利用者と家族の気持ちの変化をふまえた説明が十分に行われていない。	○	利用者や家族の気持ちの変化をふまえ、その都度話し合いを持ちながら、重度化、終末に向けた方針を利用者や家族、かかりつけ医と共有してほしい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関しては、面会簿は個人別にし、利用者の写真は個人ごとにアルバムを作り面会時に見ることができるよう配慮している。記録などは、鍵をかけ保管している。プライバシーに関しては、トイレ誘導の時は耳元でささやく様に声かけを行い、各居室内のトイレはカーテンで仕切り、入浴の際は、脱衣室内より鍵をかけるなどの配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは設定されているが、利用者の体調やその時の気分を考慮し柔軟に対応し、日向ぼっこ、お茶のみ、手芸、大正琴などを楽しんでいる。庭の草むしりなど希望があれば自由に行うことができ、職員は施設内より見守っている。食事は、利用者のペースに合わせている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜は、近くの契約農家の畑に利用者と一緒に毎日採りに行き、その都度献立を利用者と話し合い、利用者の嗜好に合ったものが提供できるよう努めている。利用者と一緒に調理が行われ、食事でも利用者の身体状況やペースに合わせた座席に配慮している。しかし、現在は利用者と一緒に食事をしているのは、職員一人だけである。	○	今後、見守りながら職員全員が利用者と一緒に、同じ食事を摂ることができるよう検討してほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的に午前中(気温が暖かい時間帯)で、利用者のその日の状態を考慮しながら行っている。湯船の湯は、一人入るごとに交換している。最低週2回は入って頂く様、入浴日を決めているが希望があればそれ以外にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者と職員と一緒に食事の準備や食器洗い、洗濯物たたみ、野菜採り、草むしりを会話しながら行なっている。自力で洗濯し、居室のテラスに干している利用者もいるなど、利用者一人ひとりの生活歴を活かして役割分担や楽しみごとが行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	広い庭先を散歩したり、併設されている老人保健施設に行ったり、夕食の材料を買いに出かけるなど利用者の希望にそった外出を支援している。また、イチゴ作りをしている職員の家に行きイチゴ狩りをしたり、花見やいも煮会のできる釣堀り等へ行くなどの外出も楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけず、利用者は庭先に自由に入出入りして過ごしている。職員は鍵をかけることの弊害を理解している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>夜間想定で年2回の避難訓練と、併設の老人保健施設と一緒に消火器の使用方の訓練を実施しているが十分ではなく、地域住民の協力も得られていない。各居室に火災警報器が取り付けられており、非常食を準備している。</p>		<p>利用者が認知症高齢者であることを考慮し、グループホームとしての初期消火や避難誘導方法など日常的な状況に合った避難訓練についても検討してほしい。運営推進会議を通じて老人会や地域の人々の避難訓練の協力を呼びかける予定となっているので今後実現することを期待したい。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事摂取量を利用者ごとに1日3食分を記録し、水分量についても利用者ごとに記録をし把握している。食事形態の工夫や素材の味を活かした工夫により常に全量摂取されている。</p>		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間は24時間センサー付きの換気機能が設置され、天井には明かり取りの窓があり明るい。居間、事務所、台所がオープンスペースになっており、居間には掘りごたつがあり、ゆったりと過ごせるようになっている。共用空間は清潔で、居心地良く過ごせるよう配慮している。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者は馴染みのタンスや椅子・大正琴を持ち込んだり、孫の作品や家族の写りが飾られている。各居室にはテラスがあり、お茶セットを用意し日向ぼっこしながらお茶を飲む利用者もいる。</p>		

 は、重点項目。



### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 認知症高齢者グループホーム森の都

記入担当者名 唯野 千晶

評価結果に対する事業所の意見

特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。